

地震対策

日本は地震の多い国です。そして近い将来、駿河湾を中心としてマグニチュード8程度の「東海地震」

が起こる可能性があります。地震による被害を少なくするために、日頃から十分な準備が必要です。地震

が起きてもあわてないで行動しましょう。

1 日頃の心得

- (1) 家具類の固定
- (2) 消火器の設置
- (3) 食料(7日分)、飲料水(3日分)の準備
- (4) 非常持ち出し品の準備(救急箱、懐中電灯、タオル等)
- (5) 避難場所の確認

2 警戒宣言が発令されたら

- (1) 情報の確認
- (2) 火の始末
- (3) 学童などの引き取り、生徒は決められた方法で下校
- (4) 家の整理、棚の上から物を下ろす。
- (5) 水と消火の準備(消火器の準備、飲料水の確保)
- (6) 身軽な服装に着替える
- (7) 非常持ち出し品の確認
- (8) 自動車、電話は使わない
- (9) 危険地域はすぐに避難
- (10) 一般の地域は、家の耐震強度を考え行動。強度が不十分なら安全な避難所へ。強度が十分

なら自宅待機

3 地震が起きたら

- (1) わ み あんぜん
我が身の安全
- (2) ひ しまつ しょうか
火の始末と消火
- (3) でぐち かくほ
出口の確保
- (4) そと と だ
あわてて外に飛び出さない
- (5) せま どうろ へい はな
狭い道路や塀などから離れる
- (6) ひじょうひんもちだしひん も ある ひなん
非常品持出品を持ち歩いて避難

4 避難場所

- (1) みちか こうえん あんぜん ひなん きんじょ ひとたち ようす み いっしょ こうどう
まず身近な公園などの安全なところに避難する。(近所の人達の様子を見て一緒に行動する)
- (2) みちか ひろば きけん じちかい じしゅぼうさいそしき やくいん あんぜん ぼしょ ひなんゆうどう
身近な広場などが危険になると自治会の「自主防災組織」の役員がより安全な場所へ避難誘導をしてくれます。
- (3) し してい ひなんじょ かしょ じしゅぼうさいそしき ちゅうしん ひなんじょ うんえい ひなんじょ
市が指定した避難所(23カ所)では、自主防災組織が中心となって避難所を運営します。避難所へ
ひなん ばあい しじ たが きょうりよく あ
避難しなければならなくなった場合、その指示にしたがいお互い協力しましょう。

◎ といあ さき みしましやくしよぼうさいか しやくしよたいしやちようべっかん かい
問合わせ先 三島市役所防災課(市役所大社町別館2階)

でんわ
電話983-2650

にほんご ひと かい
* 日本語のできる人を介して下さい。